


▶▶▶ トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
第79期第2四半期事業活動のご報告をお届けするに当たり、ご挨拶申し上げます。

代表取締役CEO 兼 社長
エリック ジョンソン

当期第2四半期累計(上期)の状況と業績 (2023年4月1日～2023年9月30日)

当社グループの主要な需要業界の動向は、半導体市場はスマートフォンやパソコン等の需要減退やデータセンター投資の減速等もあり半導体メーカーでの生産調整が継続しており需要が減少しました。フラットパネルディスプレイ市場はパネルメーカーでの在庫水準適正化に伴い生産は回復傾向となりましたが、最終製品の需要は引き続き低調に推移しました。ライフサイエンス事業の主要市場でありますバイオ医薬品市場は引き続き堅調に推移するも、米国での金利上昇の影響などにより資金供給が停滞し、対面市場であるバイオテック市場で一部減速しております。デジタルソリューション事業では、半導体材料事業において最先端技術に対応した製品の拡販を、ディスプレイ材料事業では引き続き成長が期待される中国市場において競争力のある製品を中心に拡販を進めました。ライフサイエンス事業では、バイオ医薬品の開発・製造受託(CDMO事業)、医薬品の開発受託(CRO事業)を中心に拡大に努めました。

今後の見通しと取り組み

2024年度に向けた経営方針達成に向けて進捗しておりますが、デジタルソリューション事業における半導体市場の需要回復遅れによる影響、ライフサイエンス事業における在庫に係る一時費用等の特殊要因やバイオテック市場の需要減退による売上減を勘案し、前回業績予想数値を下方修正いたしました。

■ 当期連結業績予想数値の修正 (2023年4月1日～2024年3月31日)

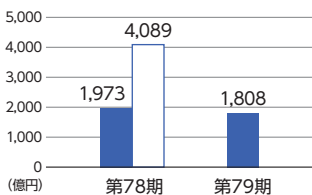
	売上収益	コア営業利益	営業利益	親会社の所有者に帰属する当期利益
修正前	4,420億円	420億円	420億円	250億円
修正後	4,130億円	180億円	160億円	85億円

配当について

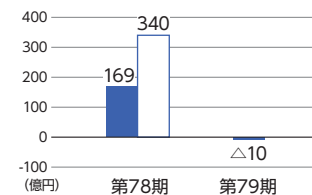
2023年6月26日開催の取締役会において決議いたしました。当第2四半期末の配当金につきましては、JICC-02株式会社による当社の普通株式、新株予約権及び米国預託証券に対する公開買付けが行われる予定であることを踏まえ、剰余金の配当及び2024年3月31日(期末)を基準日とする剰余金の配当を行わないことを決議いたしました。

売上収益

■第2四半期累計 □通期

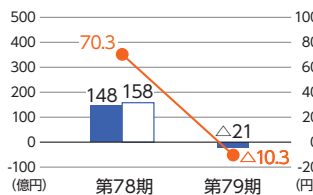

コア営業利益

■第2四半期累計 □通期

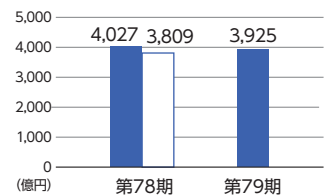

親会社の所有者に帰属する当期利益

■第2四半期累計 □通期

●基本的1株当たり第2四半期利益累計


資本合計

■第2四半期累計 □通期



(注) コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出しております。
売上収益とコア営業利益は継続事業のみ表示しております。

JICC-02株式会社による当社株式等に対する公開買付け(「本公開買付け」)が開始された場合の応募手続きについて

当社は、2023年6月26日付にて、JICC-02株式会社による公開買付けに賛同する旨の意見および株主等の皆様に対する応募推奨を表明しております。

*本記載は、株式売却の申込みを勧誘する目的で作成されたものではありません。応募の検討に際しては、必ず公開買付説明書をご確認いただいた上で、株主の皆様ご自身で応募の是非をお決めください。

本公開買付け開始の条件が充足され、本公開買付けが開始された場合の具体的な応募手続きに関するご質問は、下記にお問い合わせください。

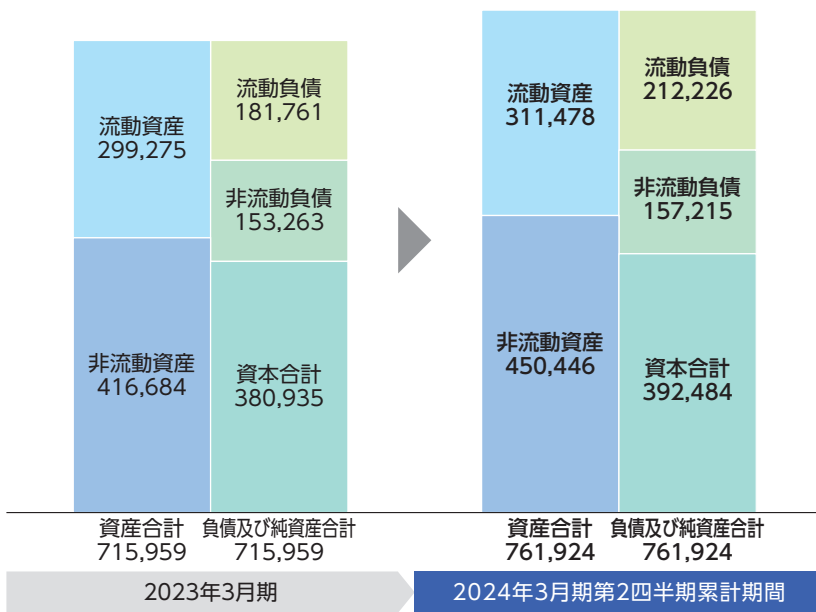
応募に関するお問い合わせ窓口

JICC-02株式会社(公開買付者)：**03-5532-7086**
野村証券株式会社(公開買付代理人(予定))：**野村証券株式会社の本店又は全国各支店にお問い合わせください。**

公開買付け開始後、公開買付けに関する案内状を順次郵送する予定です。

連結決算ハイライト

連結財政状態計算書の概要 (単位: 百万円)



財政状態計算書のポイント

1 営業債権及びその他の債権

主に当四半期期末が休日であったこと、ライフサイエンス事業の販売拡大及び為替の影響等により前期末対比で増加しております。

2 その他流動資産

主に未収税金税金等の還付により前期末対比で減少しております。

3 のれん

主に為替の影響等により前期末対比で増加しております。

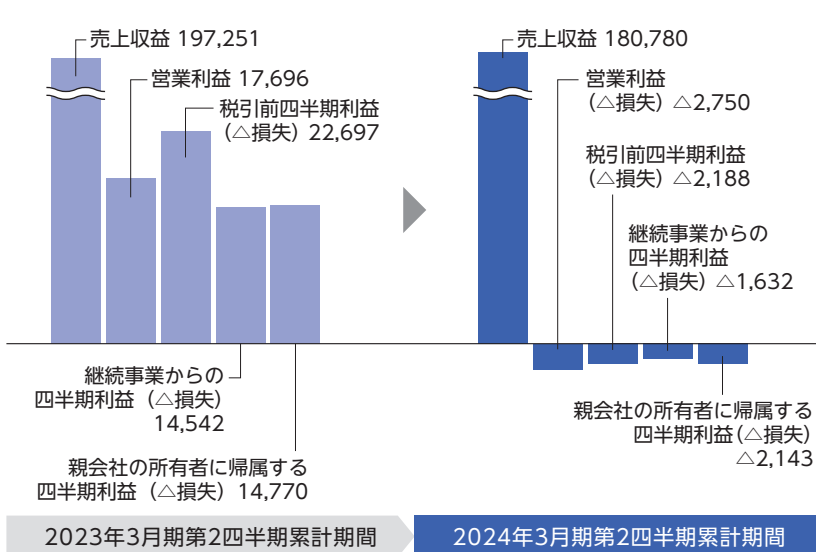
4 社債及び借入金

主にコマーシャル・ペーパーの発行や銀行からの借入金の増加により前期末対比で増加しております。

5 その他の金融負債

主に通貨スワップの増加により前期末比で増加しております。

連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



損益計算書のポイント

1 売上収益

前年同期比8.4%の減少となりました。主に半導体事業における販売数量減少や一部のライフサイエンス事業での需要減速に伴い、前年同期比で減少しました。

2 営業利益

前年同期比115.5%の減少となりました。主に半導体事業における販売数量減少や、ライフサイエンス事業における需要減速、在庫に関わる一時費用等により、前年同期比で減少しました。

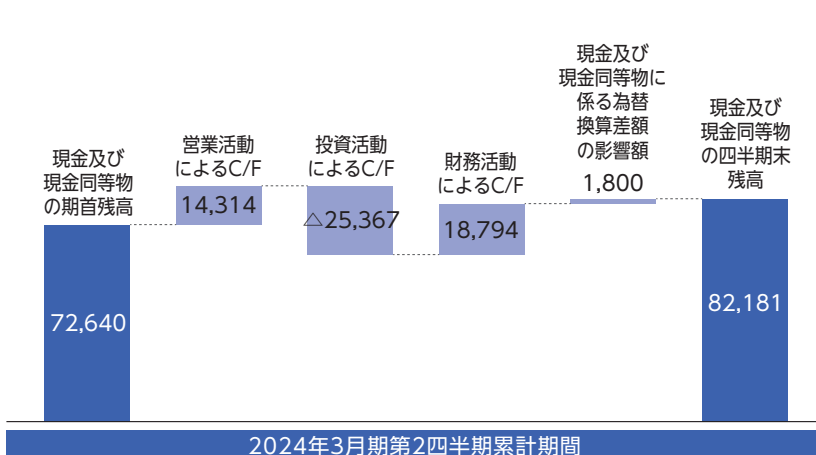
3 税引前四半期利益

主に営業利益及び為替差益の減少、借入金増加等に伴う支払利息の増加などにより前年同期から249億円減少し、△22億円となりました。

4 継続事業からの四半期利益

税引前四半期利益の減少に伴い法人所得税が減少したことにより、全体として前年同期から162億円減少し、△16億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



キャッシュ・フロー計算書のポイント

1 営業活動によるキャッシュ・フロー

主に税引前四半期利益の減少や、営業債権の増加などにより支出が増加した一方、法人税等の還付や営業債務の増加などにより収入が増加したことから、143億円のキャッシュインとなりました。

2 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に有形固定資産取得による支出により、254億円のキャッシュアウトとなりました。

3 財務活動によるキャッシュ・フロー

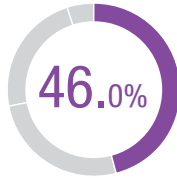
主に配当金の支払等により支出があった一方、コマーシャル・ペーパーの発行や借入金の増加等による収入により、188億円のキャッシュインとなりました。

セグメント別概況

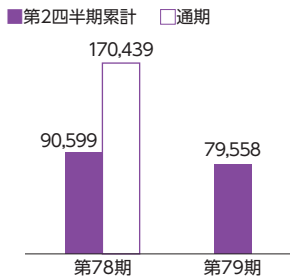
デジタルソリューション事業部門

売上収益 **795億58**百万円

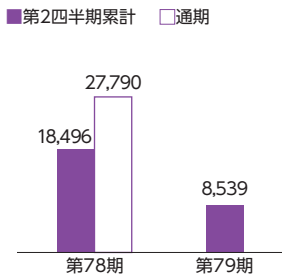
コア営業利益 **85億39**百万円



売上収益推移 (単位:百万円)



コア営業利益推移 (単位:百万円)



当第2四半期累計の事業状況

デジタルソリューション事業は、主要顧客である半導体メーカーでの生産調整による需要減を中心として売上収益は前年同期を下回りました。

コア営業利益は、売上収益の減少の影響で前年同期を下回りました。以上の結果、当第2四半期連結累計期間のデジタルソリューション事業部門の売上収益は前年同期比12.2%減の795億58百万円、コア営業利益は前年同期比53.8%減の85億39百万円となりました。

界面分子結合材「MOLTIGHT IMB」が「第19回JPCA賞」を受賞

界面分子結合材「MOLTIGHT IMB」に関し、異種基板の貼り合わせ及びめっき工程において強固な接合を実現可能とする高い技術力が評価された結果、一般社団法人日本電子回路工業会より「第19回JPCA賞(アワード)」を受賞しました。

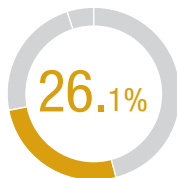


基盤に実装された半導体

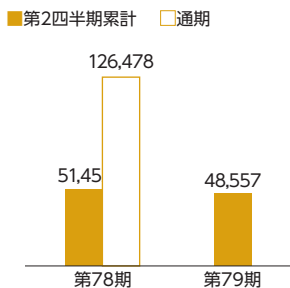
ライフサイエンス事業部門

売上収益 **485億57**百万円

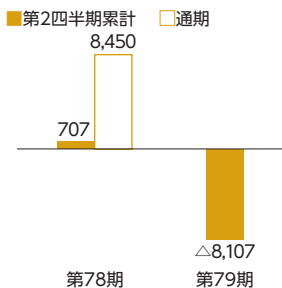
コア営業利益 **△81億7**百万円



売上収益推移 (単位:百万円)



コア営業利益推移 (単位:百万円)



当第2四半期累計の事業状況

KBI Biopharma, Inc. (KBI) での新工場の稼働により売上が拡大しましたが、株式会社医学生物学研究所 (MBL) での新型コロナウイルス抗原検査キットの販売減やバイオテック向けの需要の減速などにより売上収益は前年同期を下回りました。

コア営業利益は、KBIの一部主力工場での大規模修繕実施や各事業における売上減少に伴う利益減少もあり、前年同期を下回りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のライフサイエンス事業部門の売上収益は前年同期比5.6%減の485億57百万円、コア営業利益は前年同期の利益7億7百万円から損失81億7百万円となりました。

医学生物学研究所が中国北京に細胞治療技術研究開発センターを設立

MBLが、中国の事業会社MBL Beijing Biotech Co., Ltdの細胞治療技術研究開発センターを設立しました。当センターの設立により、本治療分野の研究が近年盛んにおこなわれている中国をはじめ、世界の先端医療技術の発展に一層貢献してきます。

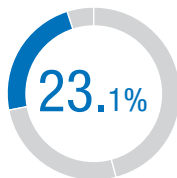


開所式の様子

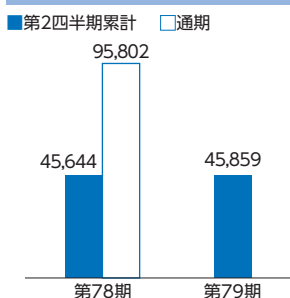
合成樹脂事業部門

売上収益 **458億59**百万円

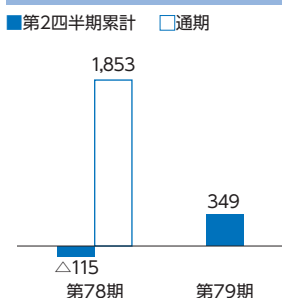
コア営業利益 **3億49**百万円



売上収益推移 (単位:百万円)



コア営業利益推移 (単位:百万円)



当第2四半期累計の事業状況

合成樹脂事業は、主な対面市場である自動車市場は一部回復傾向にあるものの、産業用資材向け需要も弱く、販売数量は減少しました。一方、価格改定により売上収益は前年同期を若干上回りました。コア営業利益は、原料価格の上昇に伴う値上げの浸透により売買スプレッドが改善し、前年同期を上回りました。以上の結果、当第2四半期連結累計期間の合成樹脂事業部門の売上収益は前年同期比0.5%増の458億59百万円、コア営業利益は前年同期の損失1億15百万円から利益3億49百万円となりました。

テクノUMG、戦略製品の付加価値ABS樹脂を拡販

主に自動車の内装・外装向けに使われる樹脂の、「きしみ音対策材HUSHLLOY®」「めっき用材料PLATZON®」「高発色性材料VIVILLOY®」を戦略製品として、拡販に努めています。

さらに、新しい素材を独自の技術で調合していくことで、次世代のABS樹脂を世界に届けてまいります。



展開例:自動車の内装

会社の概要

英文社名 JSR Corporation
 設立 1957年12月10日
 資本金 23,370,320,684円
 従業員数 8,065名 (連結) (2023年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 696,061,000株
 当第2四半期末発行済株式総数 208,400,000株
 当第2四半期末株主数 18,081名

役員

代表取締役CEO 兼 社長	エリック ジョンソン
代表取締役常務執行役員	原 弘一
取締役常務執行役員	高橋 成治
取締役上席執行役員	立花 市子
取締役執行役員	江本 賢一
社外取締役	関 忠行
社外取締役	デイビット ロバート ハイル
社外取締役	岩崎 真人
社外取締役	牛田 一雄
常勤監査役	岩淵 知明
社外監査役	甲斐 順子
社外監査役	徳弘 高明
常務執行役員	土居 誠

上席執行役員	山脇 一公
上席執行役員	山近 幹雄
上席執行役員	ティム ローリー
上席執行役員	脇山 恵介
上席執行役員	木村 徹
執行役員	藤井 安文
執行役員	吉本 豊
執行役員	徳久 博昭
執行役員	ハッシュ パクバズ
執行役員	島 基之
執行役員	山本 健太郎
執行役員	アーミン スプラ
執行役員	ジェフリー モウリー

ホームページのご案内

当社グループの企業情報や決算情報、研究開発やサステナビリティへの取り組みについて紹介しています。

<https://www.jsr.co.jp/>

IRサイトは「投資家情報(IR)」から



<https://www.jsr.co.jp/ir/>

トピックス

JSR菜々色ファームから筑波事業所の食堂へお野菜をお届けしました

より多様な障がい者がJSRの一員としてやりがいを持って長く働ける環境づくりのためJSR菜々色ファームを運営しています。今年は3年目を迎え農園で栽培できる野菜の種類が増加しています。これまで四日市工場の食堂へは1~2か月に一度のペースでお野菜を届けられるようになっていましたが今般、筑波事業所食堂へのお野菜の提供に至りました。提供したのはほうれん草です。定食の付け合わせとして130食分を準備し、食堂利用者全員にJSR菜々色ファーム産の食材を味わっていただきました。



JSR菜々色ファーム産ほうれん草



JSR菜々色ファーム産ほうれん草を使用した定食